
HAS推進セミナー

(ハッピー アンド ヘルシー・エイジング・シーン)



2022年1月28日

 一般社団法人
健康ビジネス協議会
HASプロジェクト

I. HASの概要とHAS事業について

- ① HASとは何か？HASの導き方について
◆ 「脱炭素社会への取組み」を追加
- ② HAS事業とは？HASの要件について
- ③ HAS事業の進め方

II. HASを活用した“アフターコロナ” 「新しい生活様式」の実践

III. HASを活用したSDGsへの取組み

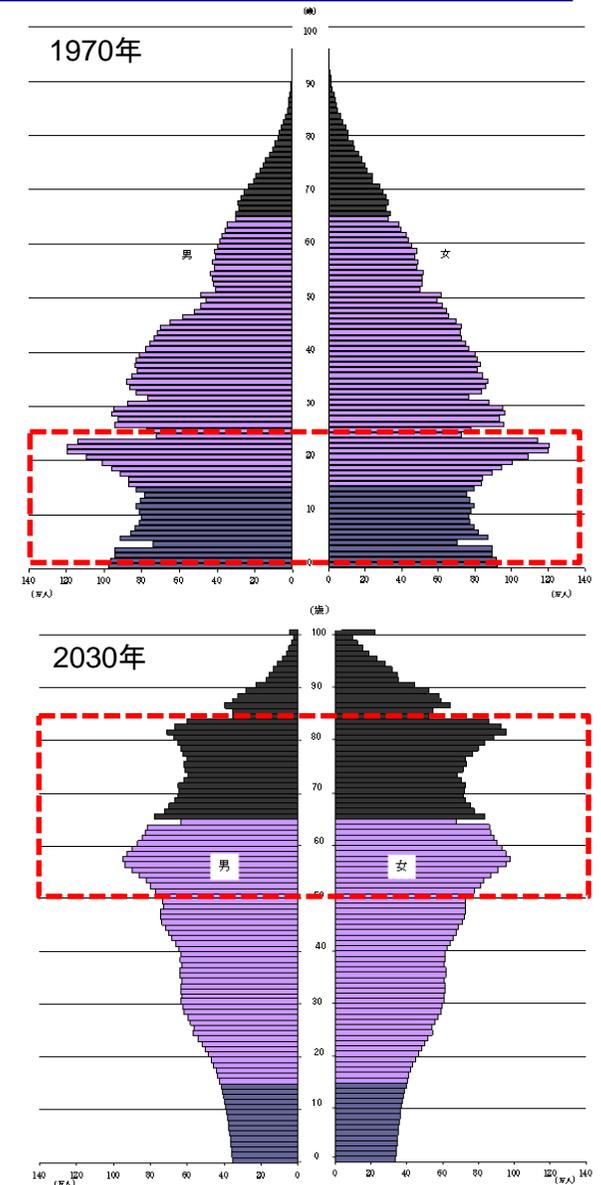


はじめに

高度経済成長期を中心に日本の消費は常に若者が主導してきた。これは団塊の世代による大きな人口ボリュームを背景としたパワーが大きな消費を生み出した結果である。しかしながらこの大きな消費を生み出した団塊の世代が2015年には65歳以上の高齢者となり、「少子高齢化」という言葉通りに出生数は減り続け、**かつての消費の主役だった若年層の時代は終焉し、それに代わり、中高年・シニア層（高齢者層）の消費に対する重要性が増している。2025年には高齢者層の消費総額が100兆円を超えるという予測も出ている。更に長寿化により今後ますます高齢者層の人口割合が増え、2035年には高齢化率が33%を超えると言われている。**

このような状況の中で商品開発を行い、健康ビジネスを成功させるためには、商品開発のターゲットを高齢者層に絞り込むことが大変有効だと考える。高齢者マーケティングは、高齢者特有の生活や心理の変化を十分に理解した上で、高齢者の特性を加味することが基本となる。

（一社）健康ビジネス協議会「HASプロジェクト」では、**2030年の超高齢社会において国内市場を牽引する市場と言われている高齢者向け市場に着目し、「高齢者が健康で生きがいを持ち続け、幸せを感じ、住み慣れた地域で、できる限り自立した生活を送り、最後まで自分らしく暮らし続けるシーン（あるべきシーン）を、バックキャストिंगの手法を用いて想定」し、そのあるべきシーンを達成するために必要な製品やサービスを開発し、ビジネス化することを目指している。**



人口ピラミッド

I. HASの概要とHAS事業

- ① HASとは何か？HASの導き方について
◆ 「脱炭素社会への取組み」を追加
- ② HAS事業とは？HASの要件について
- ③ HAS事業の進め方

II. HASを活用した“アフターコロナ” 「新しい生活様式」の実践

III. HASを活用したSDGsへの取組み



1. HASの定義

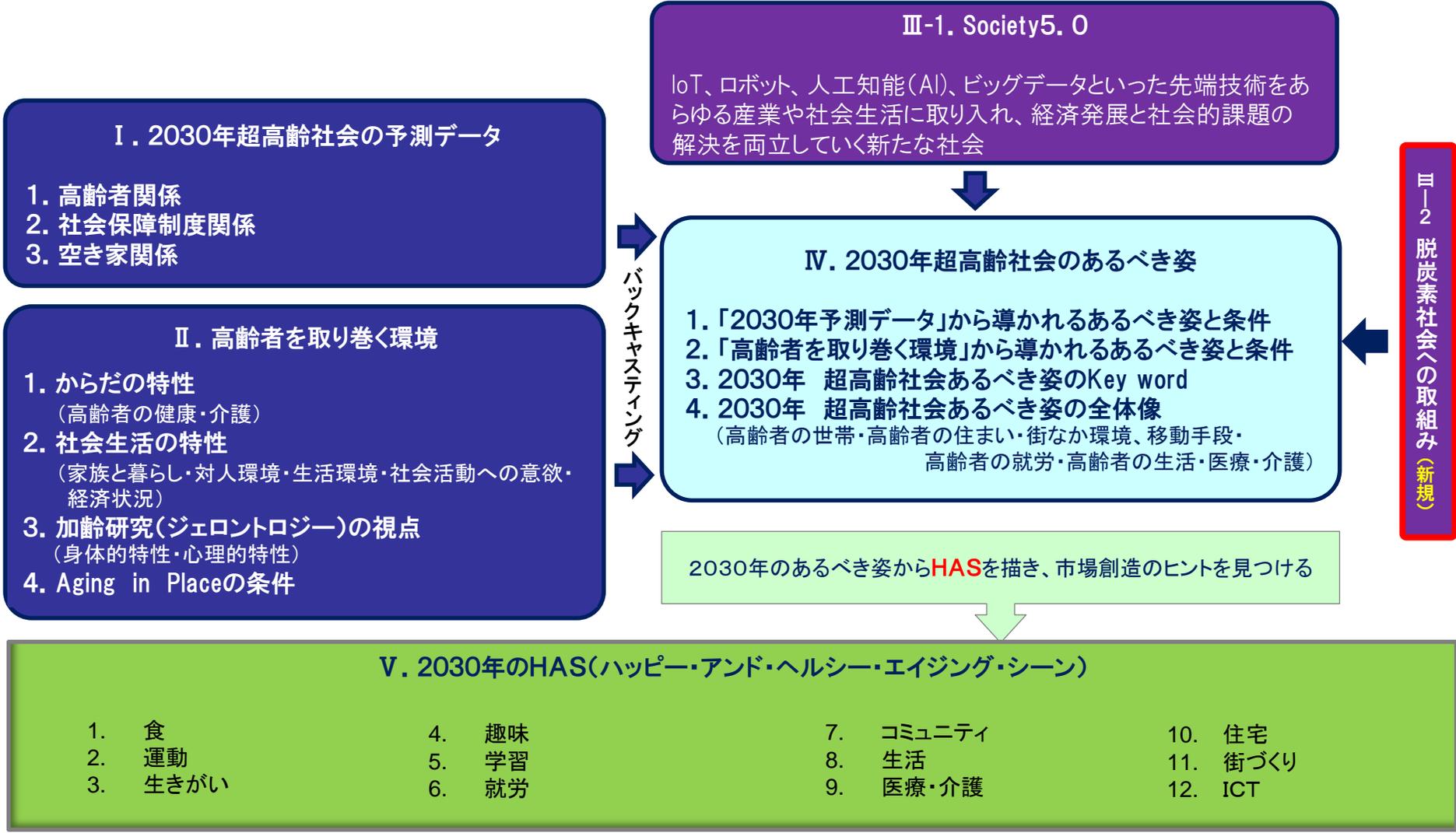
HAS (Happy & Healthy Aging Scene) とは

- 2030年の超高齢社会で、高齢者が健康で生きがいを持ち続け、幸せ(心の満足感・安全安心・人としての尊厳維持等)を感じ、住み慣れた地域で、できる限り自立した生活を送り、最後まで自分らしく暮らし続けることのできるシーン(あるべきシーン)を、バックキャストिंगの手法を用いて想定したもの。



① HASとは何か？HASの導き方について

2. HAS(Happy & Healthy Aging Scene) の導き方

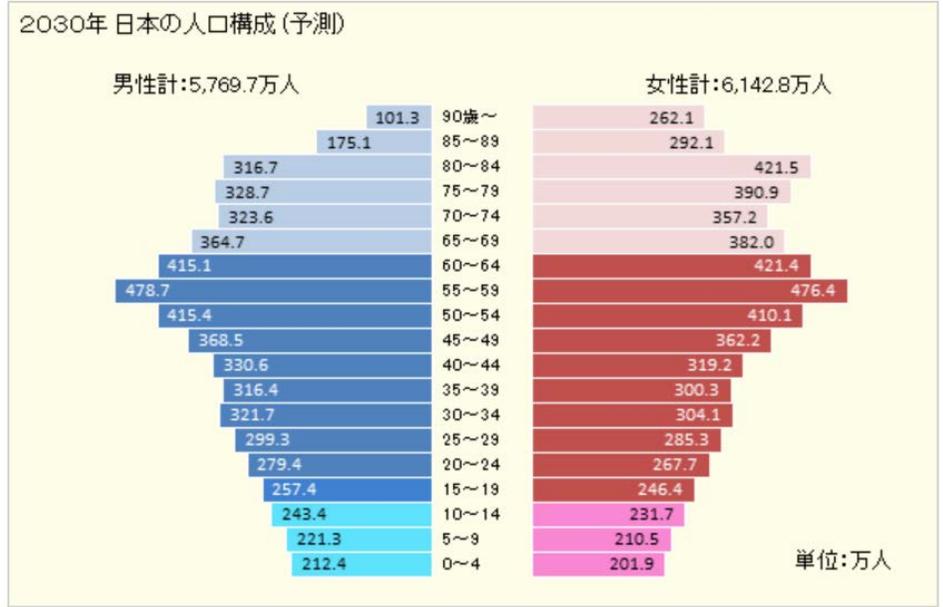


I . 2030年 超高齢社会の予測データ

1. 高齢者関係
2. 社会保障制度関係
3. 空き家関係

【1. 高齢者関係】 □人口構成

項目		2020年	2030年	増減
総人口		1億2,571万人	1億1,912万人	-659万人
年代別人口	0～14歳人口	1,503万人 (12.0%)	1,321万人 (11.1%)	-182万人
	15～64歳人口	7,449万人 (59.3%)	6,875万人 (57.7%)	-574万人
	65歳以上人口	3,619万人 (28.8%)	3,716万人 (31.2%)	+97万人
	65～74歳	1,747万人 [48.3%]	1,428万人 [38.4%]	-319万人
	75歳以上	1,872万人 [51.7%]	2,288万人 [61.6%]	+416万人
高齢化率		28.8%	31.2%	

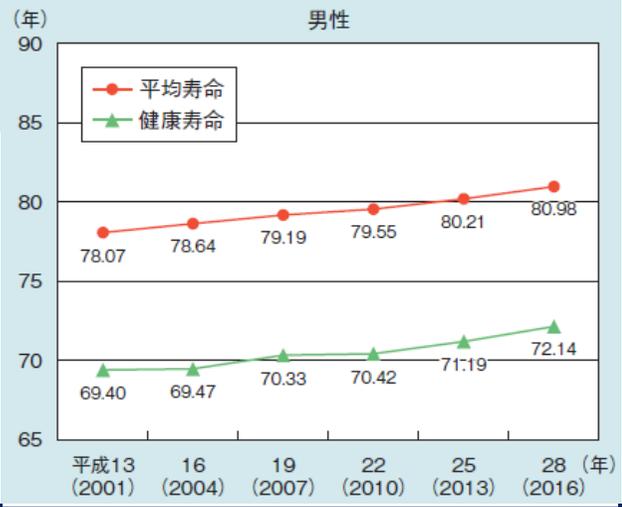
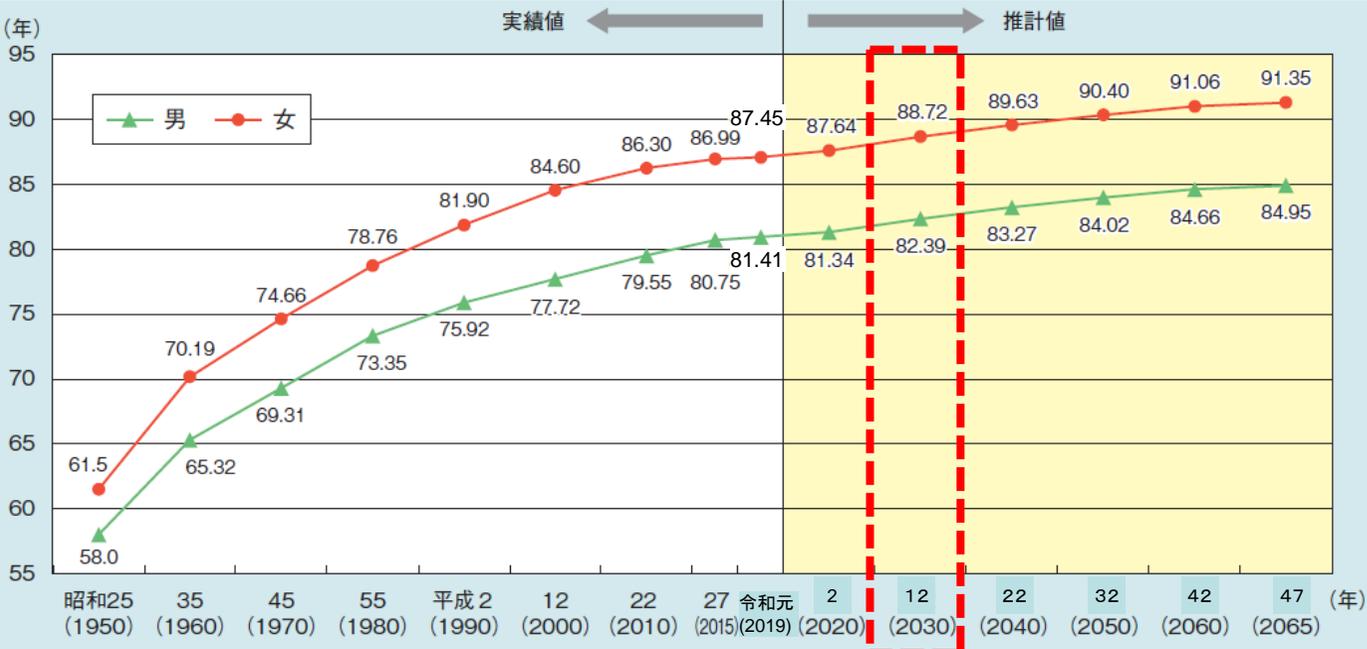


- ◆ 総人口は減少し、1億2千万人を割り込んでいる
- ◆ 総人口は減っているが、65歳以上の高齢者人口は増えていて、**高齢化率が31.2%となり3.2人に1人が高齢者**
- ◆ 65歳以上の高齢者の中でも75歳以上の高齢者の増加が顕著で、**75歳以上が高齢者の61.6%を占めている**

「人口推計(令和2年(2020年)10月1日(平成27年国勢調査を基準とする推計値) (総務省統計局)
「令和3年版 高齢社会白書」(内閣府)より

【1. 高齢者関係】 □平均寿命

参考：平均寿命と健康寿命の推移



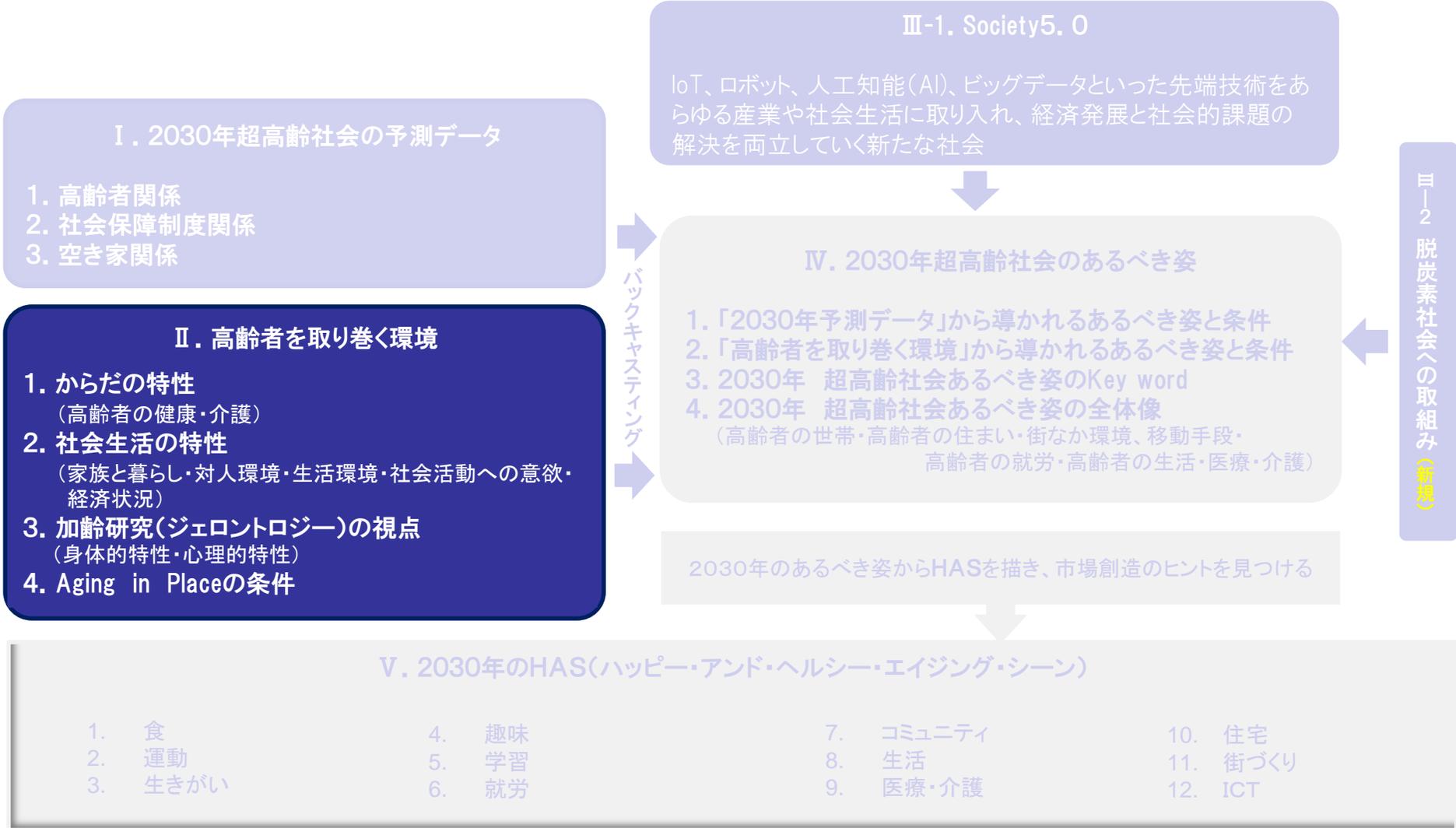
- ◆ 2030年の平均寿命は、**女性88.72歳・男性82.39歳**
- ◆ 生活環境の改善や食生活・栄養状態の改善及び医療技術の進歩によりますます平均寿命は延びると予想されている(人生100年の時代)
- ◆ **健康寿命を延ばし**、平均寿命との差を縮め、介助の必要な期間を短くすることが求められている

2- I. 2030年超高齢社会の予測データと「あるべきシーン」

予測データ	2030年の超高齢社会の「あるべきシーン」
1. 高齢者関係 <input type="checkbox"/> 高齢化率: 31. 2% <input type="checkbox"/> 人生100年時代－健康寿命を延ばす	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3人に1人が高齢者で、高齢者が幸せで快適な生活ができている ・ 高齢者向けの各種事業から多くの雇用が生まれ多世代が幸せに暮らしている
2. 社会保障制度関係 <input type="checkbox"/> 一人の高齢者に対し1. 9人の現役世代 <input type="checkbox"/> 社会保障給付費: 医療が約1. 7倍、介護が約2. 4倍 (対2018年)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現役世代に負担の大きい社会保障制度ではなく、元気な高齢者も相応の負担をする社会保障制度が確立され、自助・互助の活動も活発に行われている
3. 空き家関係 <input type="checkbox"/> 空き家率: 30. 4%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 官民の空き家バンクの活用により住み替えの中古住宅市場が形成されている。 ・ クラウドファンディング等の活用により空き家の活用提案が積極的になされ、シェアハウスやたまり場併設店舗等コミュニティ施設として活用されている。 ・ 行政の適切な措置により、特定空き家等は解体撤去され新規の高齢者施設の用地や公園、市民農園として活用されている

① HASとは何か？HASの導き方について

2. HAS(Happy & Healthy Aging Scene) の導き方

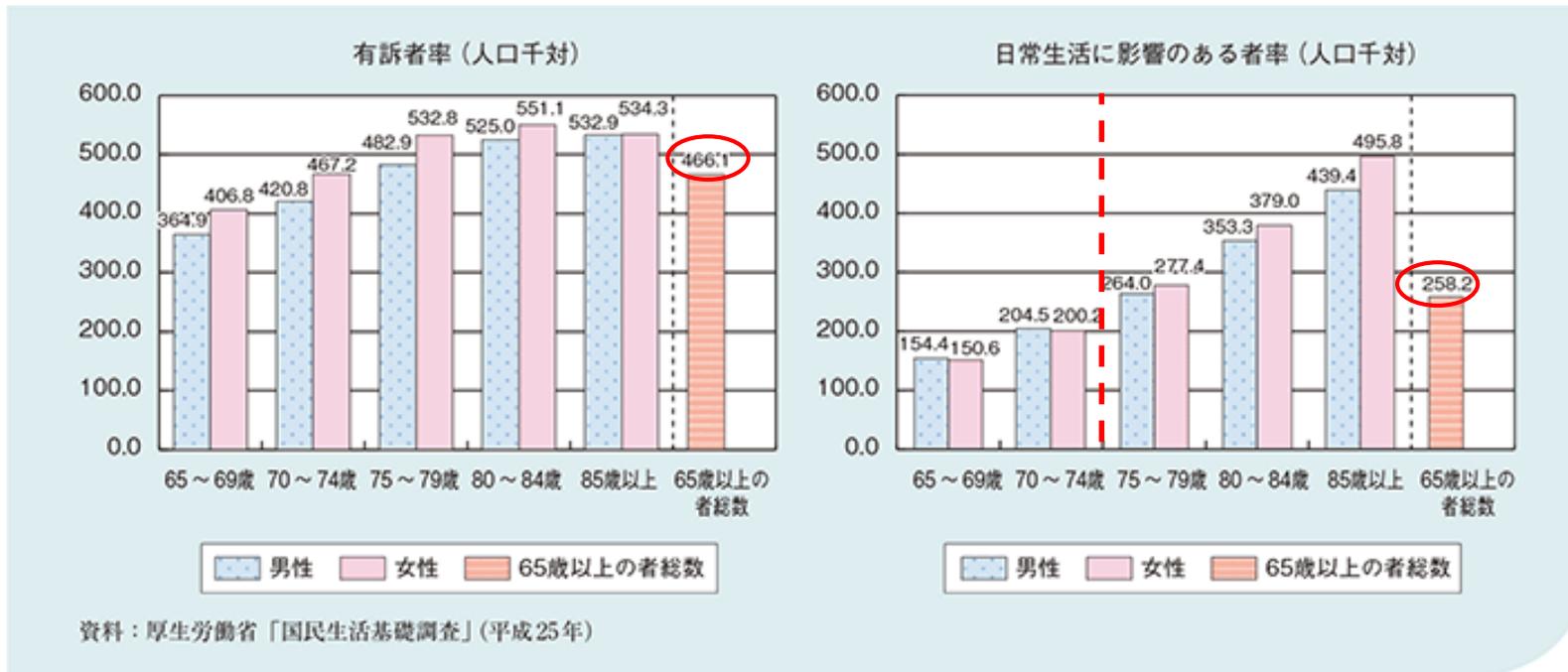


Ⅱ．高齢者を取り巻く環境(2018年時点での現況)

1. からだの特性
(高齢者の健康・介護)
2. 社会生活の特性
(家族と暮らし・対人環境・生活環境・社会活動への意欲・経済状況)
3. 加齢研究(ジェロントロジー)の視点
(身体的特性・心理的特性)
4. Aging in Placeの条件

【1. からだの特性】 □高齢者の健康

① 65歳以上の高齢者の有訴者率及び日常生活に影響のある者率(人口千対)

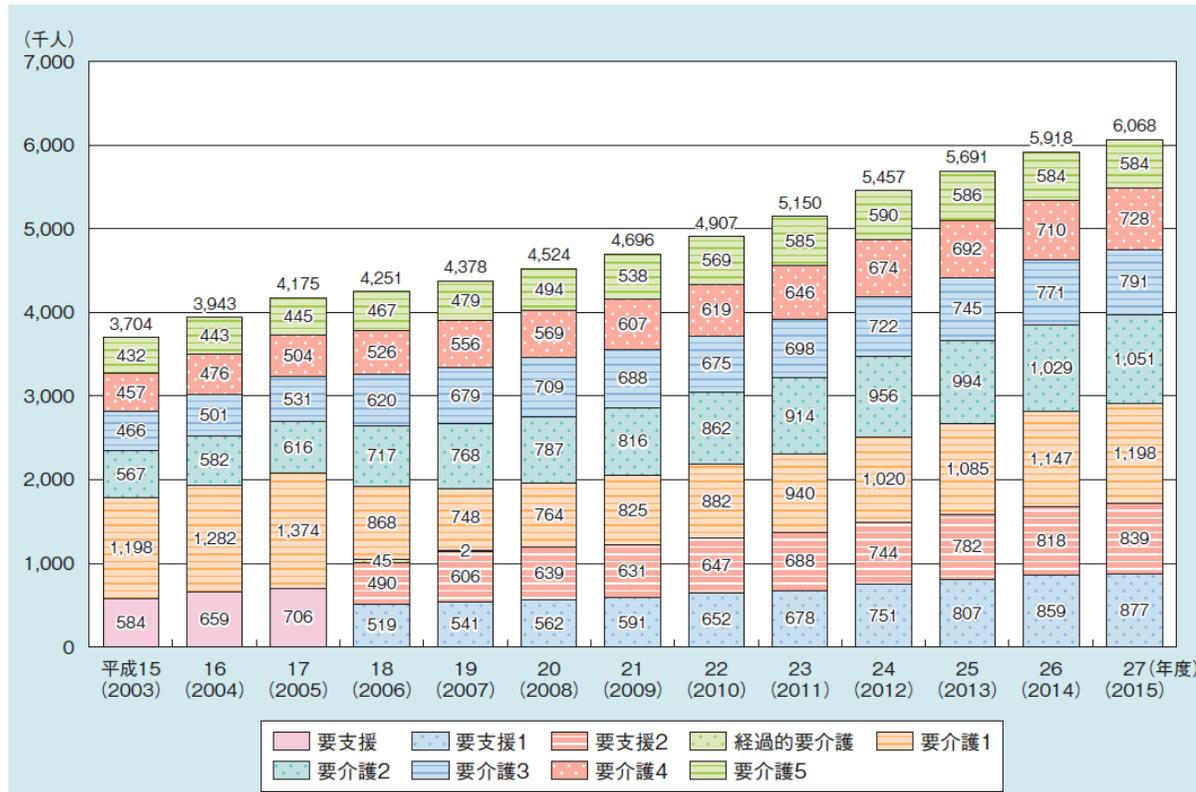


- ◆ 65歳以上の高齢者の半数近くの人は何らかの病気やけが等の自覚症状を訴えているが、日常生活に影響のある人は4人に一人程度
- ◆ 65歳以上75歳未満の高齢者の8割は日常生活に支障はない

① HASとは何か？HASの導き方について

【1. からだの特性】 □介護

① 要介護度別認定者数の推移



単位：千人、()内は%

65~74歳		75歳以上	
要支援	要介護	要支援	要介護
246	510	1,470	3,842
(1.4)	(2.9)	(9.0)	(23.5)

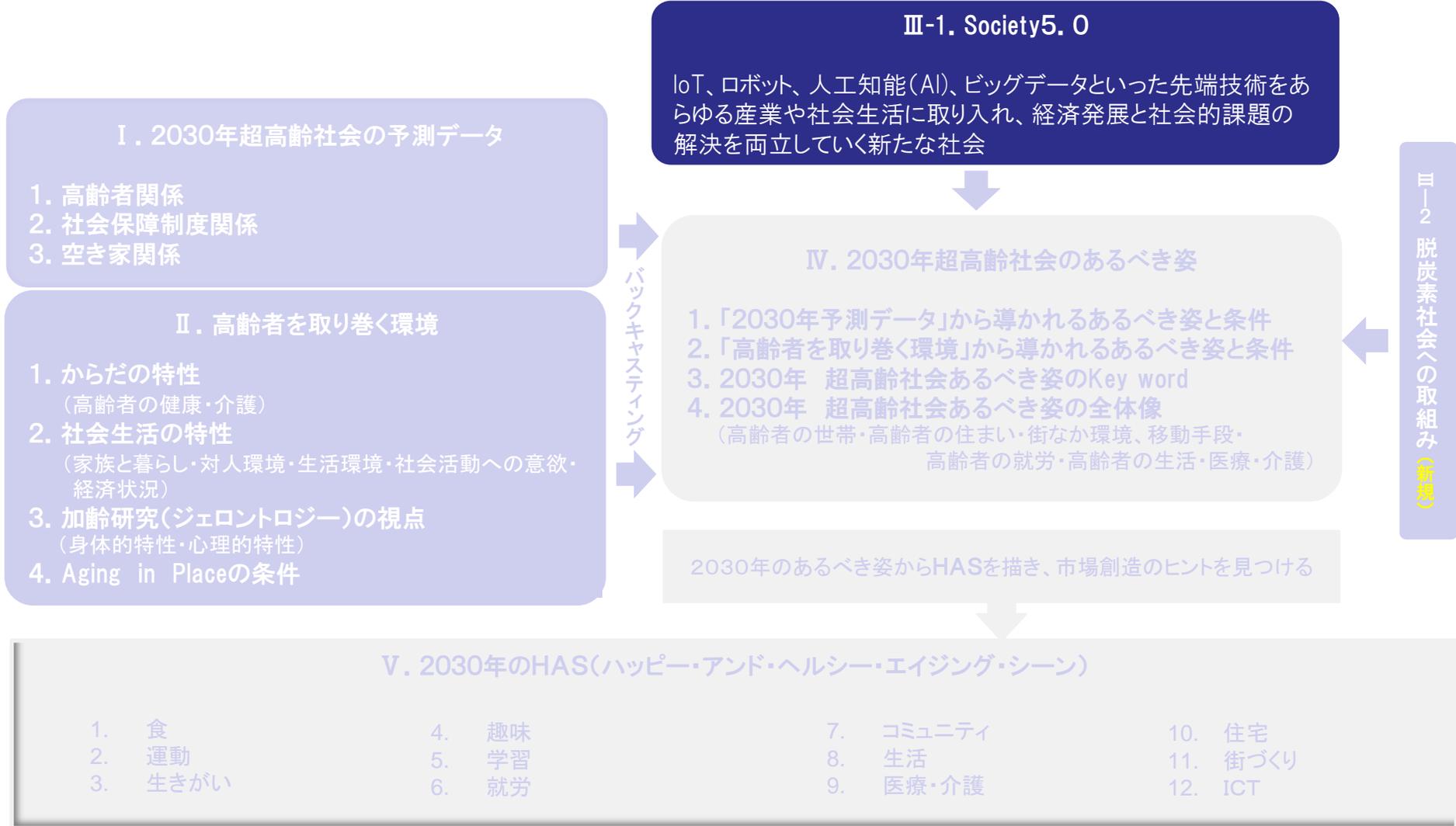
◆ 65歳以上の者の要介護者数は年々増加しており、特に75歳以上で割合が高い
 ◆ 75歳以上は3人に1人が介助の必要な状態(9.0%+23.5%=32.5%)

2-Ⅱ. 2030年の高齢者を取り巻く環境と「あるべきシーン」

1. 高齢者の特性とニーズ	2030年の超高齢社会の「あるべきシーン」
<p>1. からだの特性</p> <p>□高齢者の健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 65歳以上の高齢者で、日常生活に影響のある人は4人に1人程度 ・ 高齢者の体力は年々向上の傾向にあり、健康寿命が延伸し平均寿命と比較しても伸びが大きい <p>□介護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 75歳以上の3人に1人が要介護状態。認知症の増加が多い傾向 ・ 介助者の6割が同居家族で、その7割は60歳以上の「老老介護」 ・ 介護ロボットの活用は介護をする人される人共に6割程度が肯定的 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自立可能な健康寿命が延びていて、75歳未満の8割以上が日常生活に支障がなく、多くの高齢者が働いている ・ 在宅介護が主流となり、介護が必要になった場合のケアシステムが確立されている ・ 介護ロボットが普及し介護をフォローしている。家族の負担も減り介護離職者の問題も解決している

① HASとは何か？HASの導き方について

2. HAS(Happy & Healthy Aging Scene) の導き方

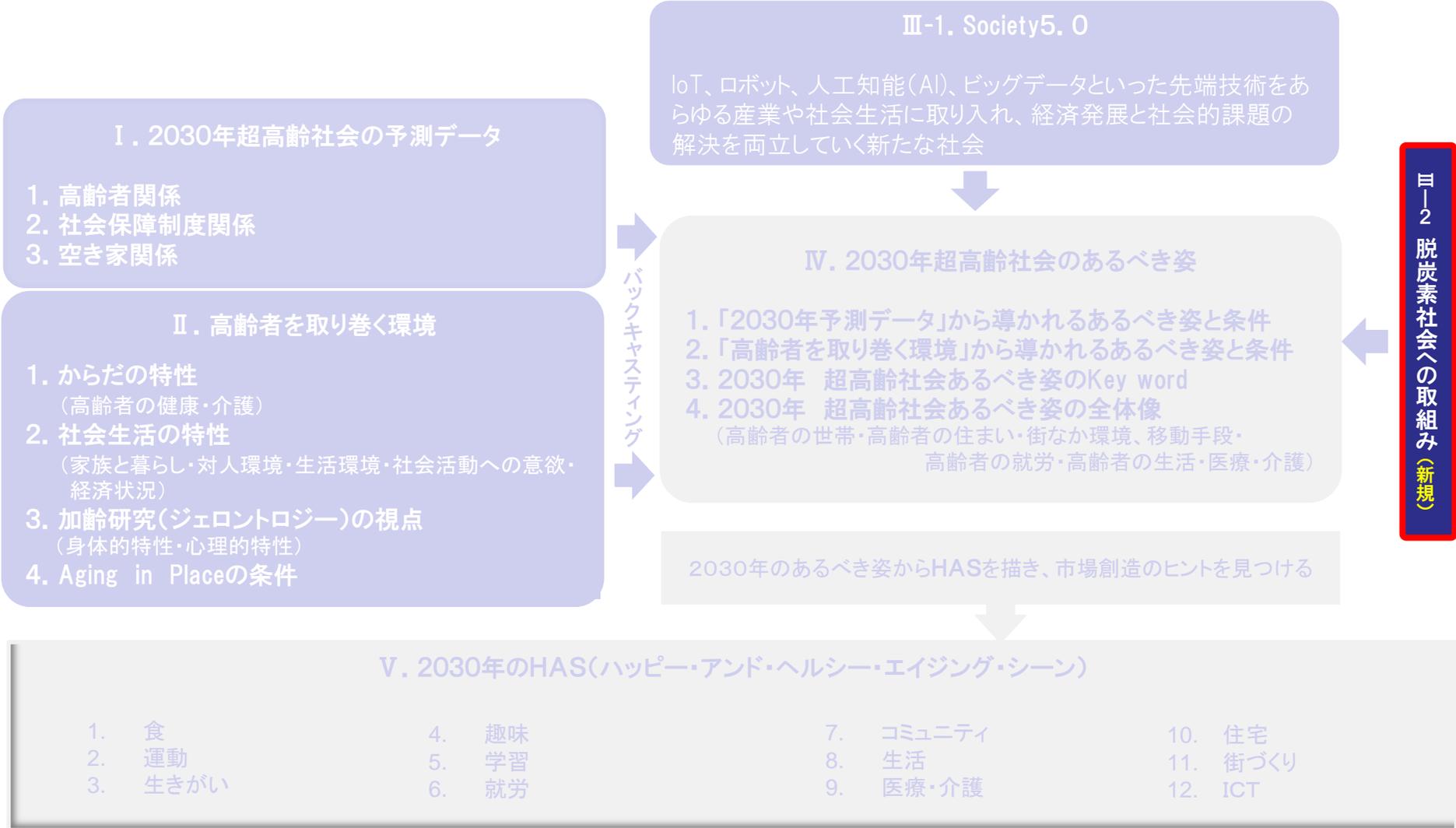


Ⅲ-1. Society 5.0

1. Society 5.0とは
2. Society 5.0で実現する社会
3. 新たな価値で経済発展と社会的課題の解決を両立
4. Society 5.0 新たな価値の事例
(食品・農業・ものづくり・医療介護・交通・防災・エネルギー)
5. Society 5.0による人間中心の社会

① HASとは何か？HASの導き方について

2. HAS(Happy & Healthy Aging Scene) の導き方



Ⅲ-2. 脱炭素社会への取組み

1. カーボンニュートラルについて
2. 脱炭素のための暮らし(農山漁村・都市部の街区)

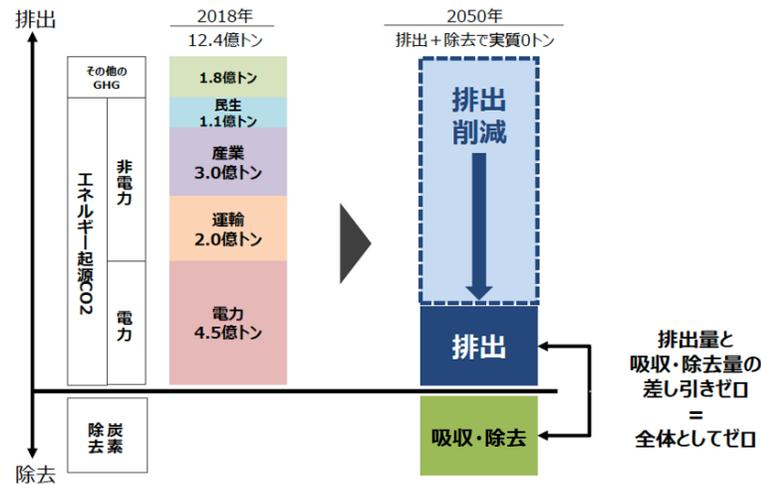
1. カーボンニュートラルについて

地球規模の課題である気候変動問題の解決に向けて、2015年にパリ協定が採択され、世界共通の長期目標として、

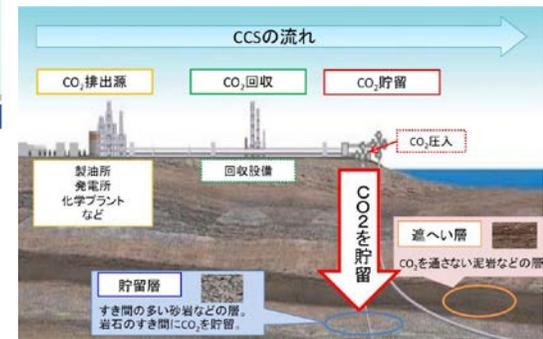
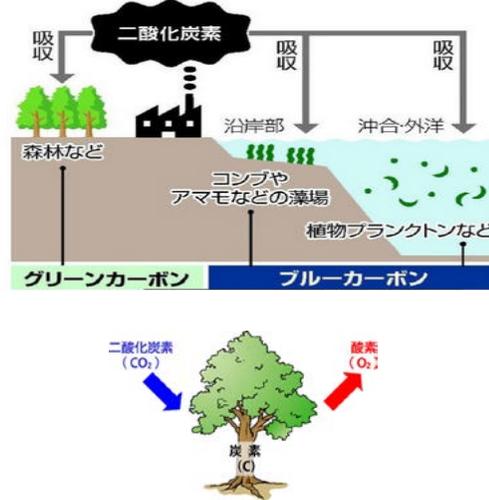
- ◆ 世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて、2℃より十分低く保つとともに、1.5℃に抑える努力を追求すること(2℃目標)
- ◆ 今世紀後半に温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と吸収源による除去量との間の均衡を達成すること

等を合意しました。

この実現に向けて、世界が取組を進めており、120以上の国と地域が「2050年カーボンニュートラル」という目標を掲げているところです。



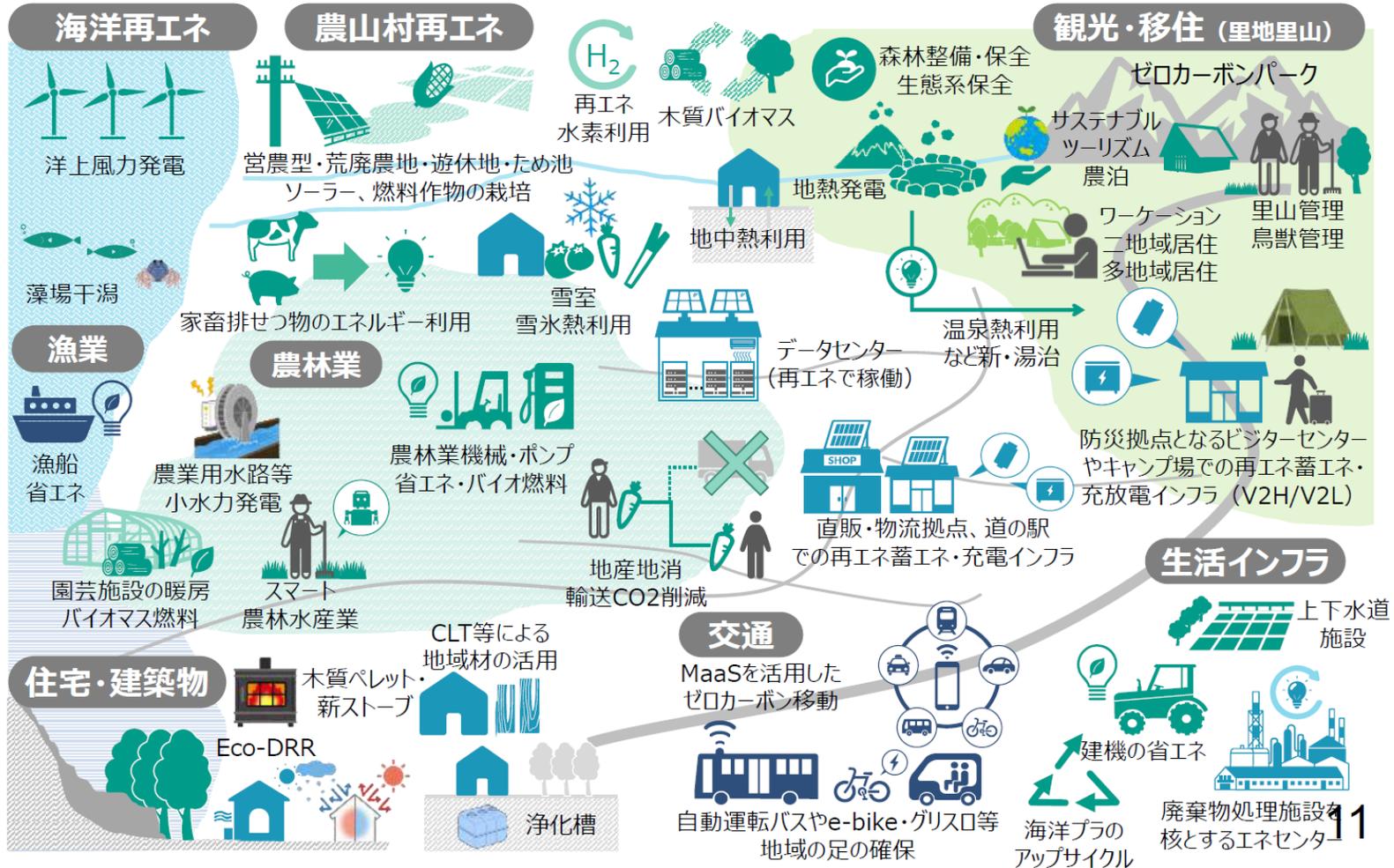
☞ 二酸化炭素が海などに吸収されるイメージ



2. 脱炭素のための暮らし(農山漁村)

脱炭素先行地域の暮らし・営みのイメージ【農山漁村】

※適用可能な最新技術を、各地域の多様な実情に応じて選択しつつ活用し、2025~30年に実現を目指すもの



2. 脱炭素のための暮らし(都市部)

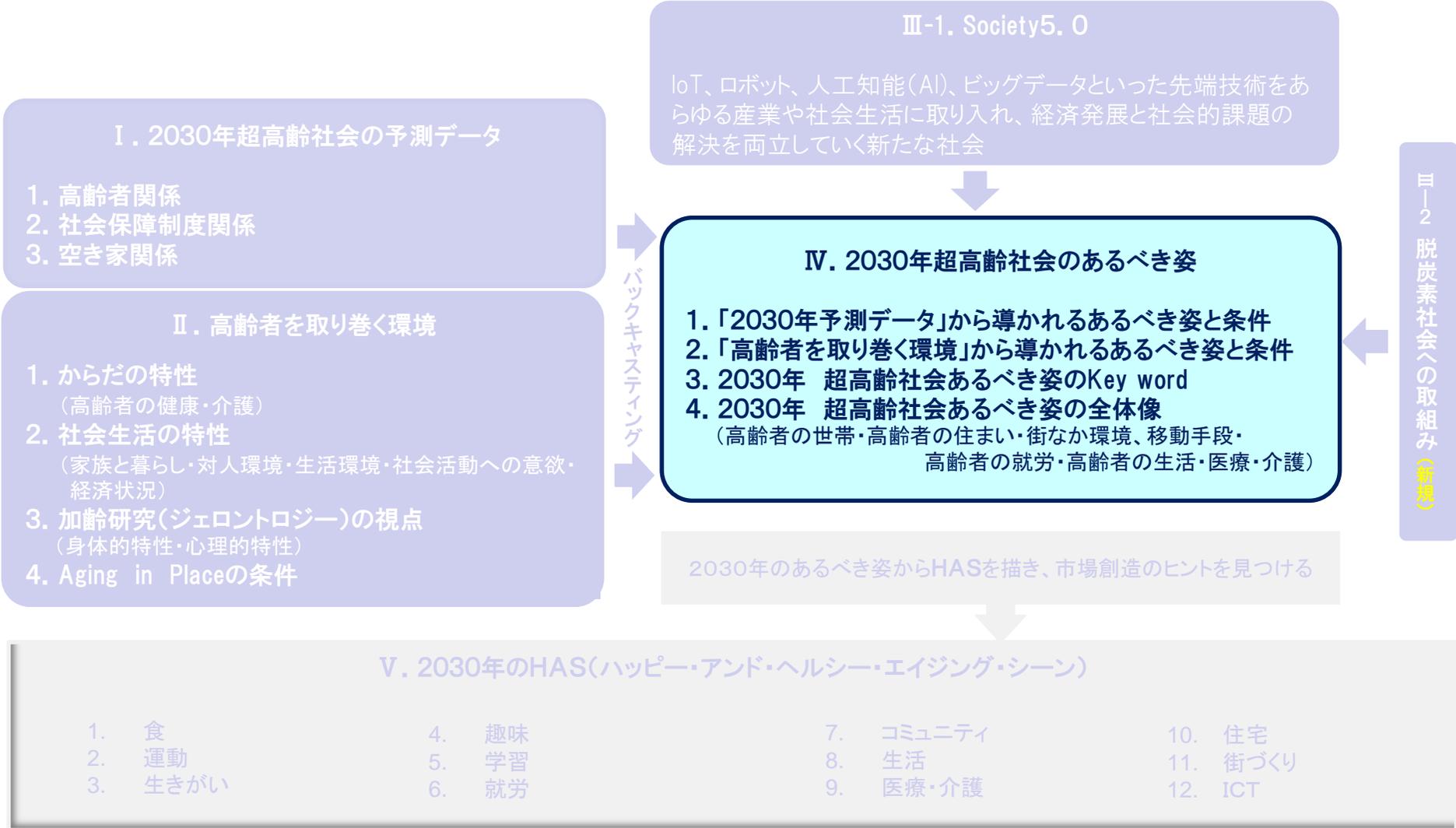
脱炭素先行地域の暮らし・営みのイメージ【都市部の街区】

※適用可能な最新技術を、各地域の多様な実情に応じて選択しつつ活用し、2025～30年に実現を目指すもの



① HASとは何か？HASの導き方について

2. HAS(Happy & Healthy Aging Scene) の導き方



IV. 2030年 超高齢社会のあるべき姿

1. 「2030年予測データ」から導かれるあるべき姿
2. 「高齢者を取り巻く環境」から導かれるあるべき姿
3. 2030年 超高齢社会あるべき姿のKey word
4. 2030年 超高齢社会あるべき姿の全体像
 - 【高齢者の世帯】
 - 【高齢者の住まい】
 - 【街なか環境・移動手段】
 - 【高齢者の就労】
 - 【高齢者の生活】
 - 【医療・介護】

① HASとは何か？HASの導き方について

3. 2030年超高齢社会 あるべき姿の **Key Word**

・健康寿命

健康寿命を延ばすことは、高齢者の就労をはじめとした社会参加機会の増加につながり、税込増、雇用機会の拡大に寄与する。更に、医療・介護費用の減にもつながる

・生きがい【「きょういく」と「きょうよう」】

⇒「今日、行くところがある」「今日、用がある」】

生きがいを持ち続けることが健康維持には不可欠。高齢者の生きがい創出は事業性もあり多世代の雇用創出にもつながる

・コミュニケーション

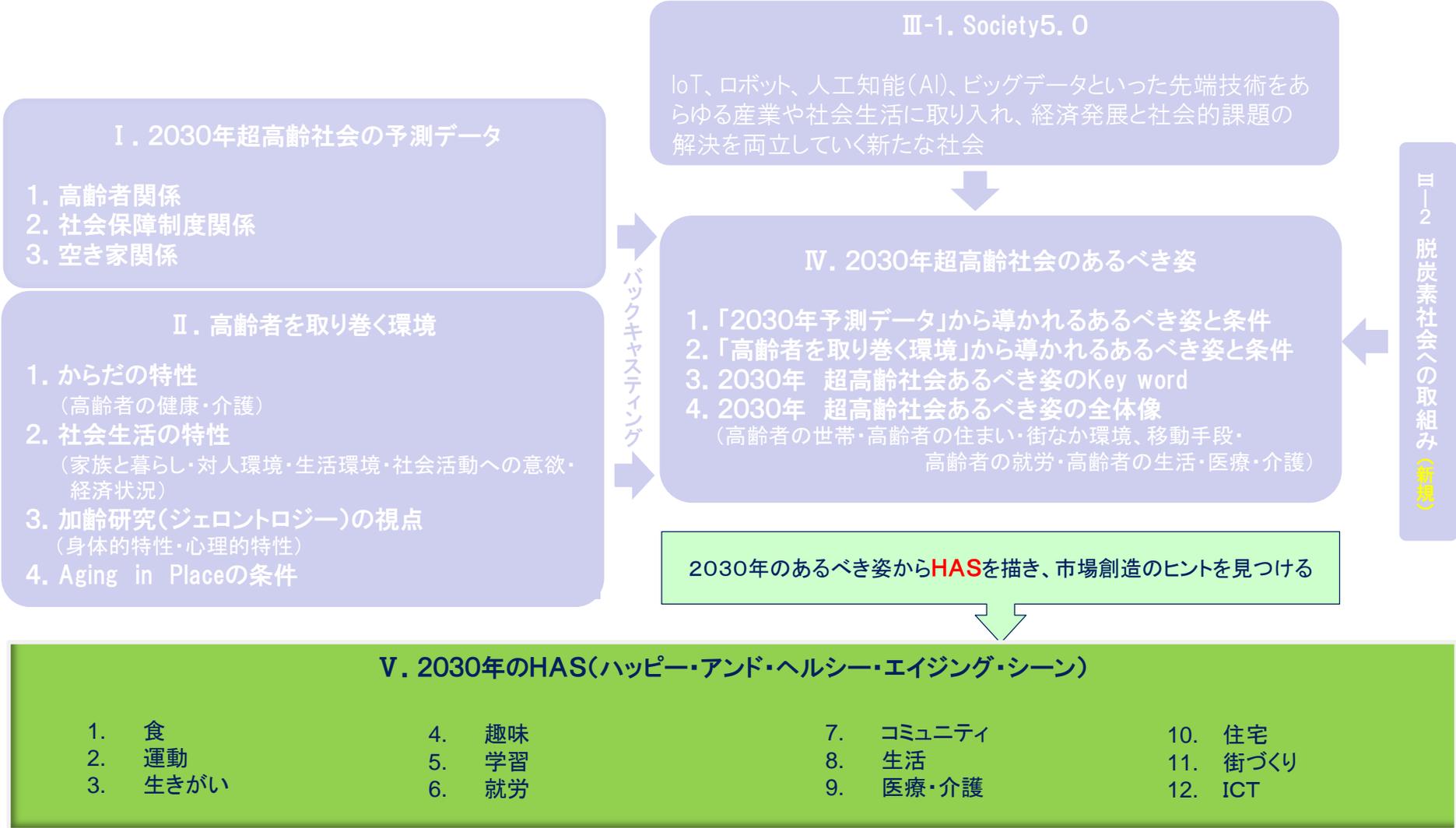
コミュニケーションは互助の精神をはぐくみ孤独感を減少させる。コミュニティの充実が街の活性化にもつながる

・多世代共生

超高齢社会のあるべき姿は、高齢者のみの社会では達成できない。多くの高齢者を対象にした事業は多世代の雇用創出につながり少子化対策にもつながる必要がある。

① HASとは何か？HASの導き方について

2. HAS(Happy & Healthy Aging Scene) の導き方



V. 2030年のHAS(ハッピー・アンド・ヘルシー・エイジング・シーン)



- | | | | |
|------------|----------|--------------|-------------|
| 1. 食(4) | 4. 趣味(7) | 7. コミュニティ(5) | 10. 住宅(4) |
| 2. 運動(2) | 5. 学習(3) | 8. 生活(7) | 11. 街づくり(5) |
| 3. 生きがい(5) | 6. 就労(3) | 9. 医療・介護(6) | 12. ICT(2) |

合計53シーン

長澤新一さん(73才) 奥様・洋子さん(71才)

ご夫婦で二人暮らし。一戸建ての自宅を高齢化対応住宅にリフォームした際、今後の安全面を考えてオール電化に変えた。



- 最近の街の航空写真をみましたが、屋根という屋根のほとんどが「太陽光パネル」なんですね。うちもそうですが、数年前から街が助成金を出して徹底的に「エネルギーの地産地消」事業に取り組んだんです。
- 自治体と地元企業で太陽光、風力、蓄電池の技術革新を推進して、公営のクリーン発電だけで街の消費電力をまかなえるまでになりました。こないだ亡くなったオバマさんでもやれなかったことを、うちの市長が成し遂げたんだから、大したものですよ。
- 今も発電効率の改善が研究されていて、数年後には余剰電力を隣町に販売する事業計画を発表しました。今より電気代が安くなったら、ほとんどタダですよ(笑)
- うちは今後の安全面を考えてオール電化に切り変えました。マイカーは小型の電気自動車にしましたが、あれは万一の停電でも数時間は補助電源になるからいいですよ。この街はオール電化や電気自動車には購入助成金がつきますので、住民も循環型エネルギーへの関心がすごく高いです。地球環境にもいいですね。

市場創造のヒント

- 太陽光発電
- 風力発電
- クリーンエネルギー
- 循環型エネルギー
- 余剰電力販売事業
- オール電化
- 小型電気自動車
- 特定電化製品購入助成金

I. HASの概要及びHAS事業と事例

- ① HASとは何か？HASの導き方について
◆「脱炭素社会への取組み」を追加
- ② **HAS事業とは？HASの要件について**
- ③ HAS事業の進め方と事業化事例について

II. HASを活用した“アフターコロナ” 「新しい生活様式」の実践

III. HASを活用したSDGsへの取組み



HAS事業とは

そのあるべきシーンを達成するために必要なモノ・コトを産・学・官及び地域の人たちで創造し、(一社)健康ビジネス協議会の会員企業が中心となりビジネス化する事業。

HASの要件

2030年の超高齢社会のあるべき姿を達成するためのモノ・コトを事業化するために、あるべき姿を4つのカテゴリー(1. 住まい 2. 生活1【自立した生活】 3. 生活2【介助の必要な生活】 4. 街づくり・移動)に分け、それぞれのカテゴリーごとにあるべき姿(目的)を達成するための手段を体系化し、その考え方及びガイドラインを示し「HASの要件」としてまとめた。HAS事業化のアイデアの根幹となる。

② HAS事業とは？HASの要件について

【HASの要件】

□ カテゴリー1:住まい

HASの考え方		ガイドライン	
質の高い住環境の中で、安心して暮らし続けることができる	自宅をリフォームして暮らし続ける	安全安心のためのリフォーム	健康な時から介護が必要になった場合まで、安心して住み続けることができるように工夫されている
		健康維持・体力維持を目的としたリフォーム	健康寿命が延びるように工夫されている
		生きがいを持ち続けるためのリフォーム	コミュニティを充実させたり、趣味を活かしたり、仕事ができる等、生きがいを持ち続けるための工夫がされている
		設備の修繕、維持管理が確実に行われている	暮らし続けるための設備の修繕や維持管理の方法や体制の構築に役立っている
		リフォームが容易に行われるような体制が確立している	高齢者向けの暮らしやすいリフォームが促進されるような方法や体制の構築に役立っている
質が高く、安心して暮らし続けることのできる住宅へ住み替える	同じ地域内のより安心して暮らしやすい住宅に住み替える	「Aging in Place」の考え方に合致していて健康状態や一人暮らしの不安の解消等につながっている	
	自分の価値観に合った住宅に住み替える	コミュニティ重視、趣味を活かす、自然と共生したロハスな生活がしたい等、価値観を満足するような工夫がされている	
	住み替えが容易に行われるような情報提供、促進体制が確立している	高齢者向けの暮らしやすい住宅への住み替えが促進されるような情報提供方法や体制の構築に役立っている	

あるべき姿



そのためには？



どのようにして？

「あるべき姿」を達成するための対策のポイント

I. HASの概要及びHAS事業と事例

- ① HASとは何か？HASの導き方について
◆「脱炭素社会への取組み」を追加
- ② HAS事業とは？HASの要件について
- ③ **HAS事業の進め方**

II. HASを活用した“アフターコロナ” 「新しい生活様式」の実践

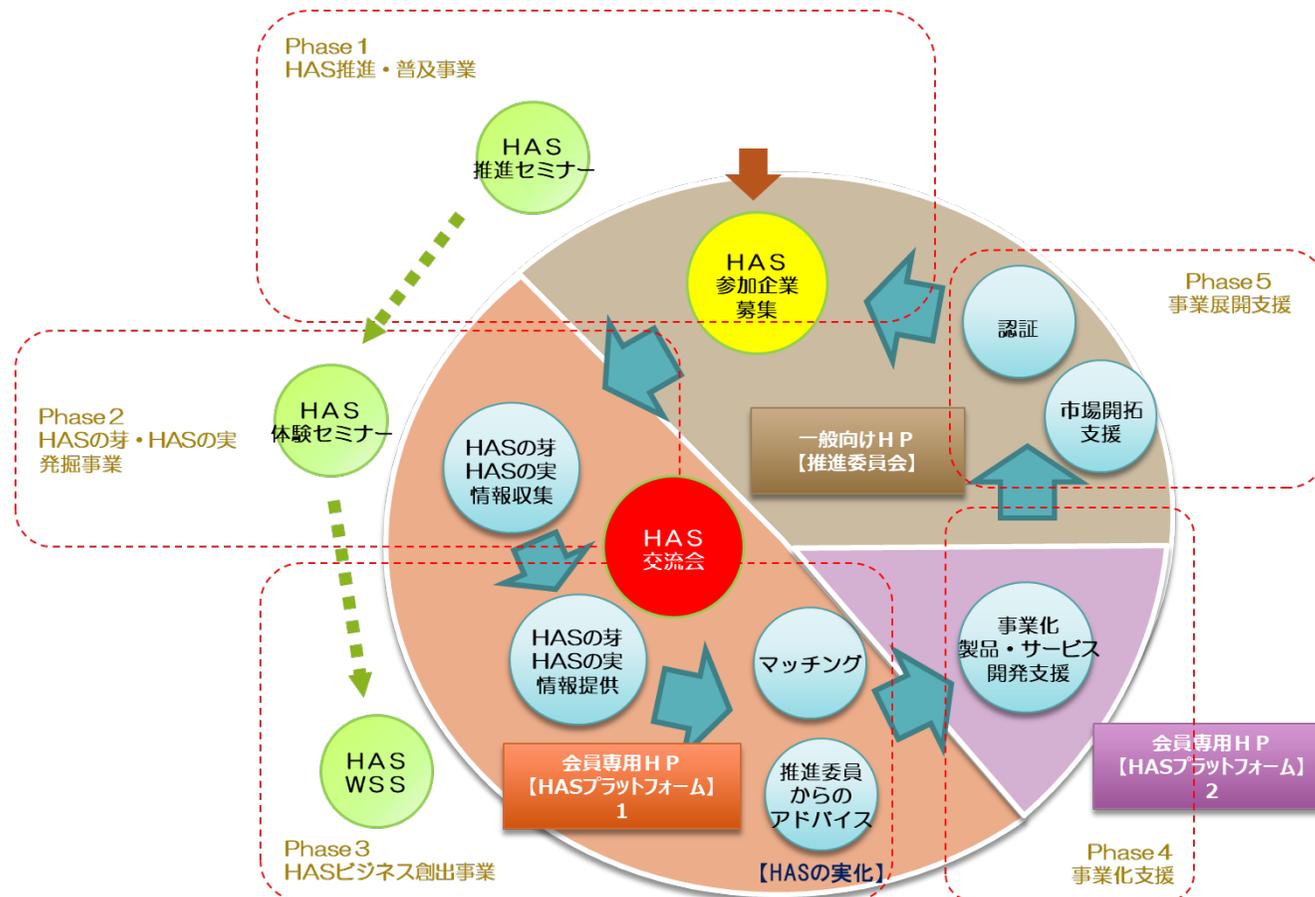
III. HASを活用したSDGsへの取組み



③ HAS事業の進め方

1) HASプロジェクトの進め方

(一社)健康ビジネス協議会が「HASプロジェクト」を立ち上げ、「Phase1:HAS推進・普及事業」「Phase2:HASの芽・HASの実発掘事業」「Phase3:HASビジネス創出事業」「Phase4:事業化支援」「Phase5:事業展開支援」を行う。HAS事業に係る情報の受発信はHASプロジェクトのHP上で行うが、HASビジネスの芽の発掘からHAS事業創出まではHASプロジェクト会員専用の【HASプラットフォーム1】上で行う。更に、「Phase4:事業化支援」については、事業化関係者のみが情報交換できる専用の【HASプラットフォーム2】を立ち上げセキュリティを強化した形で行う。HASプロジェクトの運営はHAS推進委員会が行う。



I. HASの概要及びHAS事業と事例

- ① HASとは何か？HASの導き方について
◆「脱炭素社会への取組み」を追加
- ② HAS事業とは？HASの要件について
- ③ HAS事業の進め方と事業化事例について

II. HASを活用した“アフターコロナ” 「新しい生活様式」の実践

III. HASを活用したSDGsへの取組み





【買い物】通販の利用

栄養管理面でもTLSの「グルメ・サービス」を頼んでいます。管理栄養士さんがこちらの希望に合わせて栄養バランスを考えたメニューとレシピを考えてくれます。一ヶ月分食材の買い出しリストを作って、「マーケット」から**食材の配達手配**までしてくれますので毎日の栄養への不安はありません。<1.食①より>

【娯楽】Stay Home: 家庭菜園

「週末ファーマー200万人が日本の農業を変えるか」といわれて15年、健康寿命の延伸が高齢者の一番の関心ごとになるなか、そのためには**趣味として家庭菜園が男性・女性とも良い**という認知度が上がり、大都市周辺では家庭菜園の可能な適地も少ないため、**地方への移住が増え、週末ファーマーを含む家庭菜園**を取り組む人口が3倍になりました。<4.趣味②より>

【娯楽、スポーツ】オンラインの活用・【買い物】通販の利用

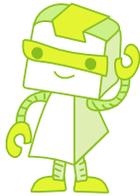
年会費だけで世界にいける**VRトラベル**の会員になりました。いつでもVRゴーグルを装着するだけで、世界に旅ができるんです。旅行先での食事の思い出から、**ご当地の味宅配サービス**を活用するようになり食事のバリエーションも増えることになって、食事が楽しみになりました。**VRで街を散策するときには、自転車**をこいだり、歩いたりする**運動機器とも連動**するので、運動も一緒にできて一石二鳥です。<4.趣味⑤より>

【買い物】通販の利用、電子決済の利用・【働き方の新しいスタイル】オンラインの活用

街が一本化した「タウンネット」は生活に必要なサービスがまとまっていてお得になるのでとても重宝しています。**マーケットのネットショッピング**やバスや電車も「**スマートカード**」一枚で支払えます。銀行の決済機能が付いているので現金を払うこともなくなりました。「タウンネット」の医療サービスは病院予約から**在宅診療**、健康カルテのデータ、日常のヘルスログ管理、健康診断の連絡、担当医師へのネット相談ができます。「ケアセンター」に介護サービスが依頼できまして、病院とセンター側とが私のヘルスログを共有しているので、対応が非常に正確で早いと評判です。<12.ICT①より>

【働き方の新しいスタイル】テレワーク

近頃AIを活用した現場管理ロボット「**監督くん**」の入社でこの年になっても私が活躍できるようになったんだ。「監督くん」は現場の全景が見えるところに立っています。**私は自宅で「監督くん」の目から映る現場の画像を見ている**。若い職員や職人さんが用があるときには「**ハーイ！渡辺さん！**」とスマホに声をかけてくれたらたとえ遠くでもズームで隣にいるように対応できます。**必要な指示は自宅にいながらできるんです**。病床でも指示だけは出せそうなので本当の意味で死ぬまで働かされるかも？(笑)<6.就労③より>



I. HASの概要及びHAS事業と事例

- ① HASとは何か？HASの導き方について
◆「脱炭素社会への取組み」を追加
- ② HAS事業とは？HASの要件について
- ③ HAS事業の進め方と事業化事例について

II. HASを活用した“アフターコロナ” 「新しい生活様式」の実践

III. HASを活用したSDGsへの取組み



Ⅲ. HASを活用したSDGsへの取組み

1. SDGs推進が欠かせない時代の到来

SDGsへの取組みは、地球温暖化、気候変動、生物多様性、海洋汚染への対応などの地球全体での環境問題や、開発途上国における貧困・食糧問題などの世界的な課題への対応、貢献のことであり、国や大企業がやればいいのか？…と置いていませんか？

しかし、消費者や取引先は食品ロスやプラスチックごみに対する認識が十分でない企業との取引を嫌厭する方向に向かっていたり、これから就職する学生たちは義務教育からSDGsを学んでおり、SDGsに取り組む企業を就職先候補として優先したりするかもしれません。まさに社会全体がSDGsが謳う「持続可能性」を誰しもが考えられずにはいられない状況になっています。

SDGsはISO規格のような認定基準や審査はありません。日本の企業の多くは、昔から三方良しの精神でお客様と社会と自社とがそれぞれ良くなるという経営を強く意識しています。気付かないうちにSDGsへの貢献を事業の中で行っています。このようにSDGsは身近なものであり、あとはこれを認識し、企業の発展のためもっと各企業は活用すべきだと考えます。

このような社会状況の中で、各会員企業がSDGsの取組みを行う上で、HASの考え方が非常に有効であることを説明いたします。

I. HASとSDGsの比較および共通点

	HAS	SDGs
概要	<p>【HASの定義】 2030年の超高齢社会で、高齢者が健康で生きがいを持ち続け、幸せ(心の満足感・安全安心・人としての尊厳維持等)を感じ、住み慣れた地域で、できる限り自立した生活を送り、最後まで自分らしく暮らし続けることのできるシーン(あるべきシーン)を、バックキャストिंगの手法を用いて想定したもの。 ・4つのカテゴリーの「あるべき姿(目標)」とそれを実現するための47のガイドライン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された ・2016年から2030年までの国際目標 ・持続可能な世界を実現させるための「17のゴール」「169のターゲット」から構成 ・地球上の「誰一人として取り残さない」ことを誓っている
事業としての考え方	<p>HAS事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そのあるべきシーンを達成するために必要なモノ・コトを産・学・官及び地域の人たちで創造し、(一社)健康ビジネス協議会の会員企業を中心となりビジネス化する事業 	<p>SDGsと企業活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業の社会的責任(CSR)では、利益の一部を社会に還元するという考え方が根底にあった ・持続可能性を重視するSDGsでは、本業そのものにSDGsに考え方を組み込むことを前提としている。そのために、ボランティアや寄付ではなく、事業を行い企業が収益を上げることが同時に社会や地域環境の改善につながるようなビジネスモデル(CSV)が求められている。
共通点	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2030年を最終目標としている 2. 望ましい未来像(あるべき姿)から遡ったバックキャストिंग思考で策定 3. 企業の事業活動として取組み、収益を上げることと社会貢献・環境改善を同時に満足させるビジネスモデル(CSV)である 	

Ⅱ. SDGsの17の目標

目標1: 貧困をなくそう

- あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる

目標2: 飢餓をゼロに

- 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する

目標3: すべての人に健康と福祉を

- あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する

目標4: 質の高い教育を皆に

- 全ての人々への、包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する

目標5: ジェンダー平等を実現しよう

- ジェンダー平等を達成し、全ての女性及び女児の能力強化を行う

目標6: 安全な水とトイレを世界中に

- 全ての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する

目標7: エネルギーを皆に、そしてクリーンに

- 全ての人々の安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する

目標8: 働きがいも経済成長も

- 包摂的かつ持続可能な経済成長及び、全ての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（デセント・ワーク）を促進する

目標9: 産業と技術革新の基盤を作ろう

- 強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る

目標10: 人や国の不平等を無くそう

- 各国内及び各国間の不平等を是正する

目標11: 住み続けられる街づくりを

- 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市および人間居住を実現する

目標12: つくる責任、つかう責任

- 持続可能な生産消費形態を確保する

目標13: 気候変動に具体的な対策を

- 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる



II. SDGsの17の目標

目標14:海の豊かさを守ろう

- ・ 持続可能な対策のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

目標15:陸の豊かさを守ろう

- ・ 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止、回復及び生物多様性の損失を阻止する

目標16:平和と公正を全ての人々に

- ・ 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、全ての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する

目標17:パートナーシップで目標を達成しよう

- ・ 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する



Ⅲ. HASの要件とSDGs目標との関係

①カテゴリー1:住まい

HASの考え方		ガイドライン	関連するSDGsの目標
<p>質の高い住環境の中で、安心して暮らし続けることができる</p>	安全安心のためのリフォーム	健康な時から介護が必要になった場合まで、安心して住み続けることができるように工夫されている	  
	健康維持・体力維持を目的としたリフォーム	健康寿命が延びるように工夫されている	  
	生きがいをもち続けるためのリフォーム	コミュニティを充実させたり、趣味を活かしたり、仕事ができる等、生きがいをもち続けるための工夫がされている	  
	設備の修繕、維持管理が確実に行われている	暮らし続けるための設備の修繕や維持管理の方法や体制の構築に役立っている	 
	リフォームが容易に行われるような体制が確立している	高齢者向けの暮らしやすいリフォームが促進されるような方法や体制の構築に役立っている	  
<p>質が高く、安心して暮らし続けることのできる住宅へ住み替える</p>	同じ地域内のより安心して暮らしやすい住宅に住み替える	「Aging in Place」の考え方に合致して健康状態や独居の不安の解消等につながっている	  
	自分の価値観に合った住宅に住み替える	コミュニティ重視、趣味を活かす、自然と共生したロハスな生活がしたい等、価値観を満足するような工夫がされている	  
	住み替えが容易に行われるような情報提供、促進体制が確立している	高齢者向けの暮らしやすい住宅への住み替えが促進されるような情報提供方法や体制の構築に役立っている	  

Ⅲ. HASの要件とSDGs目標との関係 ②カテゴリー2:生活1(自立した生活)

HASの考え方		ガイドライン	関連するSDGsの目標
健康維持のための環境が整備されている	常に健康状態が管理されている	ICTの活用等により、健康状態の情報が常に管理され、健康維持のための食事や運動、医療へ活用されるように工夫されている	 
	健康維持に役立つツールや仕組みがある	からだの健康を維持するための機器やサプリメント等の開発。心の健康を維持するためのモノや仕組み、健康維持のための教育等	  
	運動ができる環境がある	高齢者向け運動施設や体を動かしやすい雰囲気のある街並み等運動ができる環境に工夫されている。また、情報提供がされている。	  
	からだや心の健康維持を目的とした、高齢者向け食品・嗜好品が充実している	食べることが楽しみな高齢者が多いことから、楽しみながら健康維持できるように食品や嗜好品が工夫されている	  
生活支援が充実し、自立した生活を続けられる	ハード面の生活支援が充実している	生活支援ロボットや、身体の衰えを支援する機器の開発等、自立した生活を続けられるように工夫されたモノ	  
	ソフト面の生活支援が充実している	生活支援のための各種サービスの提供等、自立した生活を続けられるように工夫されたサービス	  
コミュニティが充実した環境にある	エリアマネジメントが確立し、コミュニティに必要な場があり、運営が確実になされている	趣味や娯楽、多世代交流等コミュニティの場づくりや運営に工夫がされている	   
	隣近所の人たちの行き来が活発に行われて、近隣同士の互助が浸透している	隣近所の人たちが行き来しやすく、お互い様という精神が醸成されるような工夫がなされている	 
生きがいを持って自立した生活が続けられる	<u>就労の場がある</u>	高齢者の知財を活かした就労の場やボランティア活動の場づくり、高齢者にやさしいユニバーサルな環境づくりに工夫がされている	  
	<u>学習の場がある</u>	飽くなき自己啓発意欲や趣味のスキルアップ等学習の場づくり、仕組みづくりに工夫がされている	 
	趣味が活かせる等、自分の価値観を満足させられる	長年培ってきた価値観や趣味を活かすことで生きがいを持ち続けられるような工夫がなされている	 

Ⅲ. HASの要件とSDGs目標との関係 ③カテゴリ-3:生活2(介助の必要な生活)

HASの考え方		ガイドライン	関連するSDGsの目標		
体調管理のための環境が整備されている	常に体調が管理されている	ICTの活用等により、体調の情報が常に管理され、情報が体調維持のための食事や、医療、介護へ活用されるように工夫されている			
	体調維持に役立つツールや仕組みがある	体調を維持するための機器やサプリメント等の開発。心の健康を維持するためのモノや仕組み等			
	外出できる環境にある	車椅子での移動が容易な歩道の整備等、介助が必要な場合でも外出しリフレッシュできる環境の整備に工夫がされている。			
	体調維持や心の健康維持を目的とした、高齢者向け食品・嗜好品が充実している	介助が必要になっても楽しみながら食べることのできる食品や嗜好品が工夫されている			
生活介助が充実し、介助を受けながらも満足した生活を続けられる	生活介助を受ける人が満足を感じる	介助ロボットや身体機能支援機器の開発、各種サービスの提供等、介助を受ける人が満足を感じるように工夫されている			
	生活介助を行う人が満足を感じる	介助支援ロボットの開発や介助者のための情報管理システム等、介助を行う人が満足を感じるように工夫されている			 
コミュニティが充実した環境にある	介助が必要になってもコミュニティの場があり、運営が確実になされている	介助が必要になっても孤独感を感じず人間の尊厳を維持できるコミュニティの場づくりや運営に工夫がされている			 
	介助の一部を近隣同士の互助で行われている	隣近所の人たちが行き来しやすく、お互い様という思いで介助できるような工夫がなされている			
幸せを感じる生活が続けられる	体が不自由になっても心の満足感を感じる	からだの不自由さを感じながらも満足感を得られるような工夫がされている			
	自力で動けなくても安全で安心な生活が続けられる	逃げる必要のない防犯・防災上の工夫がされている			
	寝たきりになっても人としての尊厳を維持できる	最期まで人としての尊厳を維持できるような工夫がされている			

Ⅲ. HASの要件とSDGs目標との関係 ④カテゴリ-4:街づくり・移動-1

HASの考え方		ガイドライン	関連するSDGsの目標
住まいの変化に対応した最適な住宅が選べ、多世代がともに住みやすい	高齢者以外(独身～子育てファミリー)にとって住みやすい	家族構成の変化に対応した住宅に、家賃負担が少なく移り住みかえられるように工夫がされている	   
	高齢者にとって住みやすい	自宅をリフォームして暮らし続けたり、より暮らしやすい住宅に住み替えたり、住まい方に対応して住まいが選べるような工夫がある	  
街の安全が確保されている	防災対策が確保されている	地震・津波・竜巻・土砂崩れ・洪水等の自然災害、火災等の人災に強い街になるような工夫がされている	   
	防犯対策が確保されている	住民のプライバシーに配慮しながら犯罪を未然に防ぐ工夫がされている	  
	交通安全のための配慮がなされている	高齢者や子供等交通弱者の安全が確保され、自動車・チャイノリ用PV・自転車・歩行者等機能別道路の整備に工夫がされている	  
住み慣れた地元で安心して自分らしく年を重ねる生き方のできる街	街の福祉が充実している	医療・介護等のシステムが確立されて機能している	   
	自助・互助が充実し、社会福祉が行き届いている	高齢者や障がいのある人も普通に暮らせるような互助機能を有し、ノーマライゼーションのための工夫がされている	   
街全体に活気がある	多世代交流をはじめ、コミュニティが充実している	各世代が交流できる場、多世代が交流できる場等、コミュニティが充実するような工夫がされている	  
	多世代の社会参加の場(就労・ボランティア活動)がある	高齢者の知財や時間を活用した就労の場をはじめ、街の中で多世代が収入を得られるような工夫がされている	     
	子育てしやすい子供が多い	街全体の互助の精神や高齢者の積極的な活動により、子育て世代が就労しやすい環境になるような工夫がある	    
	人が集まるしつらえがある	観光資源や特徴あるショッピングモール等、他地域からも人が集まるように魅力やしつらえに工夫がされている	 

Ⅲ. HASの要件とSDGs目標との関係 ④カテゴリー4:街づくり・移動-2

HASの考え方		ガイドライン	関連するSDGsの目標	
<p>住み慣れた地元で安心して自分らしく年を重ねる生き方のできる街</p>	高齢者や障がい者にとっても便利な生活が送れる	簡単に移動できる手段がある	  	
		歩いて用事が足せる	コンパクトシティー化に向けた工夫がされている	 
		生物多様性の保護に配慮されている	地域住民で自然保護、再生に取り組み、環境と共生した中で快適な生活ができるような工夫がされている	    
		エネルギーの地産地消に配慮されている	地域特性や地域資源を活用したエネルギーマネジメントが徹底され、エネルギーの自給自足を目指した工夫がされている	   
	街全体が環境に配慮され、サステナブルである	地域の食材の活用及び6次産業化に向けた工夫がなされている。また、地域固有の資源・技術・人を活かしている	地域の食材の活用及び6次産業化に向けた工夫がなされている。また、地域固有の資源・技術・人を活かす工夫がされている	   
		街の歴史の伝承と確実なエリアマネジメントの継続がなされている	エリアマネジメントのPDCAが確実に実施され、蓄積されることにより、街の伝統や歴史になるような工夫がされている	 

SDGs ウェディングケーキモデル



SDGs ウェディングケーキモデルでは、「経済」「社会」「環境」の3階層にSDGsの目標が分類され、「経済」は「社会」がなければなりたらず、「社会」は「環境」がなければ成り立たないことを理解することができます。

「環境」

- 目標6. 安全な水とトイレを世界中に
- 目標13. 気候変動に具体的な対策を
- 目標14. 海の豊かさを守ろう
- 目標15. 陸の豊かさを守ろう

「社会」

- 目標1. 貧困をなくそう
- 目標2. 飢餓をゼロに
- 目標3. すべての人に健康と福祉を
- 目標4. 質の高い教育をみんなに
- 目標5. ジェンダー平等を実現しよう
- 目標7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに
- 目標8. 住み続けられるまちづくりを
- 目標16. 平和と公正をすべての人に

「経済」

- 目標8. 働きがいも経済成長も
- 目標9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 目標10. 人や国の不平等をなくそう
- 目標12. つくる責任 つかう責任

キーワード:「環境問題」と「気候変動」

キーワード:「健康」「差別・偏見」「教育」

キーワード:「経済成長」「働きやすさ」「技術革新」



**(一社)健康ビジネス協議会 HASプロジェクトは
皆さんの入会をお待ちしています。**

